平成２９年度　第１回　鹿児島市子ども・子育て会議保育部会

【開催日時】
　平成２９年７月２８日（金）　１４：００～１５：３０

【開催場所】
　鹿児島市役所西別館２階２０１会議室

【出席者】
　〇部員　８名
　　前原部会長、平嶋部員、小島部員、富永部員、牧部員、山内部員、十島部員、山﨑部員

　〇鹿児島市
　　中野こども未来部長、原口谷山福祉課長、谷口学校教育課長、ほか事務局職員

【会次第】
　１　開　会
　２　こども未来部長あいさつ
　３　議　事
　　・　子ども・子育て支援事業計画における教育・保育の提供体制の点検・評価及び計画見直し（案）、並びに鹿児島市保育所等整備計画（改定版）（案）について
　４　その他
　５　閉　会

【審議の概要】
　３　議　事
　　・　子ども・子育て支援事業計画における教育・保育の提供体制の点検・評価及び計画見直し（案）、並びに鹿児島市保育所等整備計画（改定版）（案）について

（事務局）
　［資料説明］（資料１～３）

【質疑応答概要】
（部員）
　待機児童の定義について教えて欲しい。

（事務局）
　国の定義に基づき、入所できなかった子どもから、求職活動を行っていないなど保育を必要としないことが確認できた場合、他に利用可能な施設があるにも関わらず、特定の保育所等を希望する場合、除外している。

（部員）
　現在、在宅保育となっている者のうち、何割くらいが待機児童になると見込んでいるのか。

（事務局）
　就学前児童のうち保育所等の利用申し込みがあった割合は、平成27年度からの新制度施行後、大幅に保育需要が増加し、27年4月1日は26年度より3.1%増えて35.6%、28年4月は37.9%、29年4月は39.4%となった。
　本市の就学前児童数は平成25年度をピークに減少傾向となっているが、保育所等の利用希望者は増加しており、まだまだ保育需要は伸びることが予想されるため、量の見込みに対する提供量の確保や、担い手である保育士が確保されなければ、待機児童の解消には繋がらないと考えている。

（部員）
　子どもの発達障害等により集団保育に預けることを断念している家庭もあると思う。
　色々なニーズをくみ取って受入れを行っていけるよう、少し供給量に余裕を持った考えも示してはどうかと思う。
　また、地域別の目標値が14地域毎にあり、地域によって提供量が保育需要を上回っており、幼保連携型認定こども園への移行を断念している園もあるため、他の地域で足りないところを隣の地域で補うような全市的な考えは出来ないか。

（事務局）
　整備計画上では、保育サービスの充実として、⑤障害児保育の記載をしているが、基本的には施設側の受け入れ態勢が整うことが重要と考えており、今後も引き続き受け入れ可能な施設を増やしていくことでサービスの充実に努めてまいりたい。
　次に、地域毎の目標値を超えた幼保連携型認定こども園への移行については、国の制度上では移行できないというものではないが、鹿児島市の場合、整備計画において市内14地域の需要と供給のバランスを考慮しており、過剰な供給は好ましくないと考えている。

（部員）
　現実に子どもの数は減っていく中で、新設保育所をどんどん建てても、あと何年か経てばどうするのだろうという思いがある。
　そのため、今ある施設で対応していくこととし、隣接する地域を活用した方策もあるのではないか。

（事務局）
　今回の計画見直しに当たっては、就学前児童の減少等も反映した推計人口を基に、30・31年度の量の見込みを算出しており、それぞれの地域で必要とされる量の整備を図ることとしている。

（部員）
　女性の社会進出という言葉はとても綺麗に聞こえるが、経済状況が非常に厳しくなっているという理由があり、働きながら育児をしながら生活をしていくという非常に厳しいものがある。

その中で保育士の方が色々支えになったり、身近に相談相手になってくれる存在であり、保育士の質が重要になってくると思うので、保育士の方へ研修等もしていただきたいと思う。

（事務局）

保育の質を担保していくためには、保育士の方々が出来るだけ長く勤めることが出来る環境を作っていくことが大切である。保育の質は、保育士の方がどれだけ経験値があるかによって、様々な子どもに接してきたり、保護者に対する支援などが身に付いていくこととなる。

研修については、市の保育園協会が主催する研修等やその他の団体が主催する研修など色んな機会があり、そういった研修を受講し、園に持ち帰って職員間研修による情報共有や、自園研修等が重要と考える。

保育士が長く勤める環境作りには、処遇改善が重要であり、国が賃金改善として全職員に対するベースアップを行うほか、技能・経験に応じた処遇改善も行われている。

保育士は専門性の高い職業であり、働きやすい職場環境に少しずつでも改善されていくと、長く勤めることに繋がり、必然的に質が向上していくのではないかと考えている。

（部員）

保育士が長く続かない理由には、職場環境や保護者との関係もある。

各園に対し、どうやったら保育士が長く勤められるか、風通しの良い環境となるかについて呼びかけているところである。

就学前児童が減少していく中で保育需要は伸びているが、ゆくゆくは園が選ばれる時がやってくると考えている。

（部員）

養成校で理論的なものは学ぶが、勤めてみなければ学べない部分もある。職場の中でも育てていただくようなことも必要である。

現状に即した情報も学生に伝えていくことが必要である。

（部員）

周りに保育士を離職した方がおり、復職したくても子どもが小さく手が掛かるため戻れないという話を聞いたので、仕事をしたいと思う方は実際にいると思う。

小学校は空き教室が増えている中で、今の需要に対して作り過ぎると、先はそういったことになるのではと感じた。

また、保育園に限らず、幼稚園でも 11 月の募集時に入れず待機となった話も聞いたので、幼稚園でも同じような実態がある。

保育サービスの充実の点で、以前居住していた市では保育園が病児保育をしていたので助かった。

鹿児島市では保育園で行っておらず、看護師の確保や感染対策等、難しい部分もあるが、そういった取り組みも考えて頂けたらありがたいと思う。

（部会長）

もともと整備計画はハード面の整備であり、質の面や内容的な部分が後回しになりやすい。

ソフト面は数字には示しづらい部分ではあるため難しい面があるが、そういった視点を持つ

ことが重要である。
　ハード面の拡充は、現有戦力でのみ進めていくと、質の充実に繋がるような時間が奪われてしまうということが一方では出てきかねない。
　ハード面を充実させていくことと、質を担保していくような整備計画が大事であると思う。

（部員）
　親育ちも重要であり、保育士の方がこれだけ大変な思いをしている中で、保護者からの感謝の言葉があれば、すごく円滑に進み、保育士の方も辞めない可能性が高くなると思う。
　学校教育の中で保育士になる方向の教育と、親になる方向の教育と両方やっていく必要があるのではと感じた。
　保育を必要とする子どもが増えているので､小学校に上がった時に待機児童が生じないよう、教育との一体化も重要であると思う。

（部会長）
　基本的には、この計画を推進していただき、そこに質的な側面の視点が落ちないように、お互い、また行政の進展の中で十分考慮していただくということでよろしいか。
　これで議事を終了する。